

平成 15 年度 (2003 年度) 大学院国際言語文化研究科博士課程 (前期課程)
日本言語文化専攻 論述試験問題

下記の問題 (1 ~ 15) から 4 題を選び、日本語で解答しなさい。
問題の選択方法は志望講座により異なるので、次の指示に従うこと。

- (1) 第 1 志望: [日本言語文化学講座] または [比較日本文化学講座]
第 2 志望: [比較日本文化学講座] または [日本言語文化学講座]

文化系講座共通問題から少なくとも 3 題選択すること。残りの 1 題は自由に選択してよい。

- (2) 第 1 志望: [日本言語文化学講座] または [比較日本文化学講座]
第 2 志望: [応用言語学講座] または [日本語教育学講座] または [現代日本語学講座]

文化系講座共通問題から 3 題選択すること。残りの 1 題は第 2 志望講座の問題から選ぶこと。

- (3) 第 1 志望: [応用言語学講座] または [日本語教育学講座] または [現代日本語学講座]
第 2 志望: 第 1 志望講座以外のいずれかの講座

第 1 志望講座の問題から少なくとも 2 題選択すること。
第 2 志望講座の問題から少なくとも 1 題選択すること。
残りの 1 題は自由に選択してよい。

.....

【文化系講座共通問題】

1. 近代史における「国民国家」(nation state)の功罪について具体例を挙げて説明せよ。また、今後の展望をにらんだ場合、「国民国家」をどのように再定義すれば有意義と考えるか、なるべくわかり易く述べよ。
2. 芸術・文化の中で戯画化(カリカチュア)の持つ意味合いについて具体例を挙げて論ぜよ。
3. 『新古今集』に所収の有名な三夕歌がある。ここでは日本の夕暮れが独特の意味合いで描かれている。こうした感情は万国共通のものであると思うか、そうでないか。どちらかの態度を表明して、具体例を挙げながら論ぜよ。

見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮れ
さびしさはその色としもなかりけり槇立つ沢の秋の夕暮れ
心なき身にもあはれは知られけり嶋立つ沢の秋の夕暮れ

4. 夏目漱石は『草枕』の冒頭で次のように述べている。「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角(とかく)に人の世は住みにくい。住みにくさが高じると、安いところへ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生まれて、畫(え)が出来る。」この一節は日本文化をどのようにとらえているかを論ぜよ。(他の国の文化と比較して論じてよい。)

5. 古代にはそれぞれの文化に異なる美人像があり、その間に特に共通性はなかった。たとえば同じモンゴロイドの人々の間でも、中国と日本の近世、つまり清時代と江戸時代の美人像は相当に違っている。中国では纏足(てんそく)が美人の条件だったが、日本ではお歯黒が美しいとされていた。ところが、今日では多くの国々の人々が一様に賞賛するような美人像があり、例えばハリウッドの女優などが世界的な人気を博したりする。このような現象やその変化はどうして生じるのか、比較文化的な視点から考察し、説明せよ。

6. 次の文はある宗教学者の言葉である。これについてどのように考えるかを述べよ。

「たとえば、こういう俗論をよく見かける。日本人は神道で結婚式を挙げ、クリスマスを祝い、仏教で葬式をする。そのように宗教心に節操がなく無神論者みたいなものだ、と。
これは、一神教のみを真の宗教とし、第二ランクとしての多神教を蔑む言葉にすぎない。多神教徒にとっては、クリスチャンが信じる唯一神のヤハウェとても、せいぜい多くの神々の一つにすぎないのであるから、いろいろな神々、八百万(やおよろず)の神々の一つでしかない。だからこそ、クリスマスのときにはヤハウェをその日の主役とするだけのことである。多くの神仏を崇めるのは、多神教徒にとっては当たりまえのことなのである。」

【応用言語学講座の問題】

7. 誤りの分析が言語研究において果たし得る役割について、具体的に論ぜよ。

8. 下記の文を読み、設問(1)、(2)に日本語で解答せよ。

It is well-known that late learners of a language (either first or second) exhibit poorer performance, relative to early or native learners. This finding itself is somewhat paradoxical. Apparently, learners of different ages (i.e., learners in different maturational states) show differing degrees of success in inducing the internal organization of their linguistic input, with greatest success achieved by the least mature learners. In contrast, in most cognitive domains, children are much less capable than adults, with competence increasing over age.

The traditional explanation in language acquisition for findings of such discrepancies between language and other cognitive abilities has been to posit a special language faculty, which is entirely intact only early in life, and then undergoes decay or deterioration as maturation continues. On this view, the inverse relationship between cognitive abilities and language learning(i.e., that the learner gets worse at language learning as he or she gets better at most cognitive tasks) is accidental, due to the fact that the language faculty happens to be at its peak early in life. The view suggests that competence in language and competence in other domains are not necessarily the same, since they derive from independent faculties.

(1) 言語習得における伝統的な説明とはどのようなものであるか述べよ。

(2) これまでの伝統的な説明とは異なる新たな提案がいくつか出されているが、その内のいずれか一つを取り上げて説明せよ。

9. 次の文は、文化記号論の一つの定義を述べたものである。この考えをもとにして、文化記号論の研究の可能性や科学としての役割について述べよ。

「文化記号論は、メッセージ、発話論を中心に構造言語学の諸成果をモデルとして利用しつつ、自然言語を中心とする諸記号系、自然言語をもとに形成される文化テキストの構造と機能を追求する」

【日本語教育学講座の問題】

10. 対照分析仮説 (Contrastive Analysis Hypothesis) が生まれた背景 (言語習得における理論的背景) と、当該仮説の問題点を述べよ。また 1960 年代後半以降の誤用に対する考え方と誤用分析 (Error Analysis) の問題点について述べよ。

11. 次の文章はある日本語学習者の作文である。誤っている部分を訂正し、なぜ間違っているのか、なぜそう直せばよいのかを文法的に説明せよ。

私は〇〇と申します。今は〇〇大学に日本語を勉強しています。今まで日本語はもう二年間に習って、日本について面白いことをたくさん覚えてもらいました。

12. 日本語の初級教科書では、丁寧体 (= デス・マス体) の会話から入るのが普通である。初級の後半に普通体 (= ダ体) の会話が導入されている教科書もあるが、すべて丁寧体で統一されているものもある。

初級教科書におけるこうした会話文の文体の扱いは妥当であろうか。このアプローチの良い点、問題となる点を複数の角度から検討し、自らの立場を述べよ。

【現代日本語学講座の問題】

13. 下の短い会話を参考に、ターンテークとポライトネスの観点から会話に現れる「発話の重なり」について論ぜよ。

1 課長: 田中君 昨日頼ん | だ書類 |

2 田中: | あっ 今 | やってます。

3 課長: うん。今先方さんから電話があって11時までには頼むっていうんだ。

4 田中: はい | わかりました。 |

5 課長: | 頼むよ | 悪いけど。

6 田中: はい。

(「 | 」: 発話の重なるの始めと終わりの位置を示す。)

14. 下記の 1 から 5 の例文を参考にして、「述べる」と「語る」という2つの語の共通点と相違点を記せ。結論だけでなく、分析の過程も記述すること。なお、例文の冒頭のクエスチョンマークは、その文が不自然であることを表す。

- 1a 知事は記者団に「わが県にはダムは必要ない」と述べた。
- b 知事は記者団に「わが県にはダムは必要ない」と語った。
- 2a Aさんは披露宴で心暖まる祝辞を述べた。
- b ?Aさんは披露宴で心暖まる祝辞を語った。
- 3a ?父は私に若い頃の苦労をしみじみと述べた。
- b 父は私に若い頃の苦労をしみじみと語った。
- 4a B氏は論文の中で以下のように述べている。
- b ?B氏は論文の中で以下のように語っている。
- 5a ?先週、「夏目漱石を述べる会」に参加した。
- b 先週、「夏目漱石を語る会」に参加した。

15. ダ行とザ行の子音それぞれについて調音的に記述せよ。次に、ダ行とザ行の子音に混同が見られる日本語学習者がいたとき、この問題を分析するために、どのような実験を行えばよいか述べよ。